

第一回館山市議定会定例会會議錄（第五号）



一、昭和五十七年三月二十七日（土曜日）午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十五名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	十一番 林 豊
一二番 栗原 一雄	一三番 近藤 好雄
一四番 渡辺 昭夫	一五番 伊藤 幸太郎
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二三番 菊井 敏博	二四番 和田 一郎
二五番 五十嵐 昇	二六番 伊賀 多朗
二七番 石井 正	二八番 安澤 徳順
二九番 安西 益男	
欠席議員 一名	
三〇番 山口 康	

出席説明員

第四号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第五号）

昭和五十七年三月二十七日午前十時開議

議案第 九号 館山市附属機関設置条例の一部を改正

日程第一

議案第 十号

する条例の制定について

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十一号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十二号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十三号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十三号

昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第九号）

議案第 十四号

館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十五号

館山市廃棄物処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十六号

館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十七号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十八号

館山市防災会議条例の一部を改正す

日程第二

る条例の制定について

館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十四号

昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

議案第二十一号

公有水面埋立免許に関する答申について

日程第三

議案第二十二号  
議案第二十五号

市道路線の認定について  
昭和五十六年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第二号）

議案第一号

昭和五十七年度館山市一般会計予算

議案第二号

昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第三号

昭和五十七年度館山市と畜場特別会計予算

日程第四

議案第四号

昭和五十七年度館山市ユースホステル特別会計予算

議案第五号

昭和五十七年度館山市学童災害共済事業特別会計予算

議案第六号

昭和五十七年度館山市水道事業特別会計予算

日程第五

議案第七号

昭和五十七年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

請願第二号

し尿くみ取り料金の値上げに反対す

る請願書

日程第六 請願第三号

日本農業再建・食糧自給率向上のため  
の食糧制度拡充を求める請願書

日程第七 議案第二十八号

館山市助役の選任について

日程第八 議案第二十九号

館山市固定資産評価審査委員会委員  
の選任について

日程第九 発議案第一号

核兵器完全禁止及び軍縮に関する意  
見書について

日程第十 発議案第二号

第九次道路整備五か年計画策定に関  
する意見書について

開

議 午前十一時十四分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十五名、これより第一回市議会定例会第五日目の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議案の配付

○議長（林 豊君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。  
本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

議長の報告

○議長（林 豊君） この際、申し上げます。

去る十二月定例会において公共施設等調査特別委員会が設置され、第一回委員会が一月二十五日、第二回委員会が二月二十四日

に開催され、その概要について中間報告が提出されましたので、お手もとに配付の印刷書により御報告いたします。

## 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第九号ないし議案第十三号及び議案第二十三号の各議案を一括して議題といたします。

### 総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、去る三月十五日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君御登壇願います。

### （総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る三月十五日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第九号ないし第十三号及び議案第二十三号につきまして、三月十八日総務委員会を開会し、慎重審査の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第二十三号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第九号についてですが、第十五款の繰越金が四億五千三百万円になるが、どのような理由によるものかと質問したところ、昭和五十五年度決算において、歳入で市税の伸びが一億円、当初予算において計

上しなかった特別交付税が一億四千二百万円、雑入で一千万円、競輪収入で二千六百万円の歳入増と、歳出で六千八百九十万円の不用額が出たのが主な理由であるとの答弁がありました。

次に、これは多額な繰越金だと思う。その年度の財源として有効に活用していくことも必要ではないかとただしたところ、従前は抜本的な財政再建をしなければならぬということで極力経費を節減して、財政調整資金を積みよう努力してきた。財政規模の一割程度の財政調整基金は必要じゃないかと考えており、現在、七億六千万円程度となっている。今後は御趣旨のような方向で考えるとの答弁がありました。

さらに、繰越金がこれだけ出るなら、起債を調整するようなことは考えられないかとただしたところ、ただ、金利が問題で、いままで借りた金利より新しく借りる金利の方が安ければ借りて、繰り上げ償還したい。そういう方針で運用しているとの答弁がありました。

次に、今回、補正の繰越金は四億五千三百万円であり、五十五年度決算における歳入歳出差引額は四億七千八百九十三万七千円となっており、この違いについて質問したところ、衛生センタ一の継続費通次繰越額千七百十三万一千円と、松岡地区水田利用再編対策並びに船形小学校防音改築工事の繰越明許費額八百八十万六千円、計二千五百九十三万七千円によるものとの答弁がありました。

次に、五十六年度会計の歳計剰余金の最終見込み額をただしたところ、市税で七千万円、特別交付税で一億三千八百万円、財産売り払い収入一億四千三百万円、不用額で八千万円程度とみて、

四億八千万程度出るとの答弁がありました。

次に、第二款総務費中地方バス路線維持費補助金が当初予算でなく補正で計上されているが、その理由と、二種、三種生活路線の内容についてたまたところ、事業所の決算が九月ということから補正予算にならざるを得ない。第二種生活路線は、經常収益が經常経費に満たない路線で、平均乗車密度が五人以上十五人未満で、かつ一日の運行回数が十回未満のもので、經常収益が經常経費の四分の三未満の場合に国、県、市町村がそれぞれ經常経費の八分の一を限度として補助する。第三種生活路線は、經常収益が經常経費に満たない路線で、平均乗車密度が五人未満の場合に国、県がそれぞれ不足額の四分の一、市町村が二分の一補助するものと答弁がありました。

さらに、この利用制度は今後も続けるかどうかをたまたところ、第三種生活路線は非常に利用度が少ないということで、運輸省の考え方としては本年度いっぱいでの制度を廃止したい意向のようであるとの答弁がありました。

次に、第四款衛生費中清掃費に関連して、ごみ収集はどのように行われているかをたまたところが、各町内において何カ所かごみの搬出場所を設けるといふステーション方式により、可燃物については地区によって週三回と、週一回の収集を行っており、不燃物については全地区週一回収集ということで定期的に行われているとの答弁がありました。

さらに、週三回収集と、週一回収集の地区に分けられている現在の方法は、現状にそぐわなくなっていないかとたまたところお説のことも聞くので、早急に検討するとの答弁がありました。

次に、第六款農林水産業費中水田利用再編対策補助金に関連して、基盤整備事業が施行されていたことが転作目標達成にとって多大な影響があったと考えられる。五十六年度の転作目標を達成できなかったのはどこの地区であるかの説明を求めたところ、基盤整備事業が行われていない豊房、神余地区が特に転作率が悪かったとの説明がありました。

さらに、転作目標の達成できなかった地区の今後の見通しはどうかとたまたところ、転作が非常に困難な水田については農協への保全管理の方法で転作に協力してもらいたいということで各部落に話し合いを進めている。来年度は一〇〇%近くやっていただけると考えているとの答弁がありました。

次に、転作水田現地確認調査員報償金について、どのような形で確認しているかを質問したところ、一筆全部転作した水田については部落で確認し、一つの水田を区分して転作した場合は市の方で測量し、確認しているとの答弁がありました。

次に、転作目標達成を余儀なくされている農家の現状についてどのように考えるかをたまたところ、基本的には食糧制度を維持することが農家にとってプラスであり、そのために再編対策事業が行われているわけである。最終的には農家の食糧制度を守ろうとする意識の問題であり、多少現在の段階で無理であっても転作していくという自覚をまず呼び起こしていきたいとの答弁がありました。

次に、酪農振興事業利子補給金が五十八万二千円減額計上されているが、これは利用者の負担する利率が三%から五%に引き上げられたために利用者が減少したのではないかと質問したところ、

現在の融資額残が四千三百二十万九千八百八十五円で、それに對する利子補給額が百八十七万六千九百九十八円となり、当初の計上額との差額を補正した。確かに利用者は減少してきているが、これは現在の畜産の状況に原因があるのではないかと考えている。しかし、利子補給について今後検討したいとの答弁がありました。

次に、クルマエビ種苗放流事業補助金については、種苗放流にあたって補助事業はもとより、市独自において稚貝等のあつせんはやれないかと質問したところ、今後は手配できるものがあれば要望にこたえていきたいとの答弁がありました。

次に、第七款商工費中、中小企業融資運営委員会委員報酬が二十三万六千円減額されているが、五十六年度に委員会は何回開催されたか。また、その貸付件数と金額について質問したところ、九回開催した。貸付件数は十一件で、その金額は二千二百七十四万円であるが、三月中において一、二件申し込みもあると思えるので、月末には委員会を開催する予定である旨の答弁がありました。

さらに、商工会議所で行われている制度と比較して問題はないかとただしたところ、保証をつけなければならぬということとその点利用者にとって若干の抵抗があるようであるとの答弁がありました。

以上、総務委員会に付託されました議案につきまして、本委員会の審査の概要を申し上げます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げて、総務委員会委員長報告いたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で、質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第十号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第十一号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について並びに議案第十二号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

議案第十号は、議員の報酬を二十三万円から二十四万五千円に引き上げようとするものですが、私はこれまでも主張してきたとおり、議員の報酬のあり方は平均的な勤労者の生活を維持するに足る費用及び議員としての通常の活動費であり、その決定にあたっては十分に住民の合意が得られるものでなければならぬと考えます。二十四万五千円の議員報酬は地域の勤労者の所得水準から勘案いたしまして高いと考えます。

議案第十一号は、市長の給与を五十八万六千円から六十二万三千円に、同じく議案第十二号は教育長の給与を四十六万三千円から四十九万二千円に引き上げようとするものでありますが、それ

それ特に引き上げの必要はないと考えます。一般職職員の給与等が公開されながら、その一方で、住民の直接選挙で選ばれた議員や、市長の報酬や給与の審議経過がガラス張りにならないのは大変な片手落ちというべきであります。報酬審議会の審議の公開については今後前向きに検討するとの答弁がありました。この報酬審議会の審議をガラス張りにし、広く住民の納得のできる形で審議がされるよう強く主張いたしましたして反対の討論といたします。

次に、議案第二十三号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第九号について反対の討論をいたします。

歳入歳出それぞれ五千八百六十三万八千円の増額補正をしようにするものであります。歳出を見ますと、二億円もの金を財政調整基金に積み立ててしています。市民生活を見るとき、市が緊急にやるべき施策が十分に行われているとは言えません。むしろそうした施策を抑えて積み立てをしていると言わなければなりません。こうした半澤市政のあり方は市民生活優先のスローガンとは相入れないものであり承服できません。特に安房郡市最高の通学費父母負担など軽減するべきであり、市民にとって切実な諸課題を実現するよう強く主張いたしましたして反対の討論といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、通告者による討論を終わります。通告をしない議員で討論はありませんか——討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は分割して行います。

まず、議案第九号について採決いたします。

議案第九号についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第九号館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第十号ないし議案第十二号の各議案を一括して起立により採決いたします。

議案第十号ないし議案第十二号の各議案についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、議案第十号ないし議案第十二号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第十三号について採決いたします。

議案第十三号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第十三号を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第十三号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。



次いで、議案第二十三号について起立により採決いたします。

議案第二十三号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第二十三号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

#### (賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。よって、議案第二十三号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長(林 豊君) 日程第二、議案第十四号ないし議案第二十号及び議案第二十四号の各議案を一括して議題といたします。

#### 文教民生委員会委員長報告

○議長(林 豊君) ただいま議題となっており各議案は、ともに去る三月十五日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長古賀礼四郎君御登壇願います。

(文教民生委員会委員長古賀礼四郎君登壇)

○文教民生委員会委員長(古賀礼四郎君) 去る十五日開会の本会議におきまして文教民生委員会に付託されました一般議案七件、補正予算一件について、十九日委員会を招集し、慎重なる審査を行いました。

以下、本委員会におきます審査の概要につき御報告申し上げます。

まず、審査結果について申し上げます。議案第十四号及び議案第十五号については原案可決、議案第十六号については一部修正可決、議案第十七号ないし議案第二十号及び議案第二十四号についてはいずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項について申し上げます。

まず、議案第十四号館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。児童遊園は県の設置基準により敷地六百六十平方メートル以上を原則として市内十四カ所に設置、遊具等についても基準に示された標準的なものを設備し、その管理は地元へ委託しているが、設備の補修については市が行っているとの説明があり、さらに今後も敷地等条件を満たすものについては児童遊園として設置するし、その他コミニティ広場等についても検討したいとの考えが示されました。なお、遊具などで破損しているものが見受けられるので、十分なる点検を要望いたしました。

次に、議案第十六号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、本会議における質疑により論議はほぼ尽されておるところであります。本委員会におきましても、改定の理由、算定の根拠、受益者負担に対する市当局の基本的な考えにつき改めて説明を求めるとともに、新施設の運営体制、従量制における計量問題等詳細に質疑を行いました。

また、本案については、審査の過程におきまして委員から修正

案が提出されましたので、修正案の内容について御説明申し上げます。

別表第一の改正規定中「一〇リットルにつき一二〇円」とあるのを「一〇リットルにつき九〇円」に修正しようとする内容で、修正理由といたしましては、今回、市当局から提案されたし尿収集手数料の値上げはあまりにも大幅な値上げで、市民生活に与える影響がきわめて大きいこと。及び手数料決定にあたっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく地方公共団体の責務を十分配慮した上で住民負担を決定すべきであるとするもので、採決の結果、本修正案どおり修正することに決しました。

なお、修正部分を除く改正規定については原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第十九号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の報酬改定にあたっては五割の引き上げを行ったとの説明がありましたが、周辺市町村の状況についてたてましたところ、周辺十市町村の平均は、団長十五万八千円、副団長十一万六千円、分団長七万六千円、部長四万五千円、班長三万七千円、団員二万七千円であるとの説明がありました。

また、関連として、消防車購入に対する基本的な考えについてたてましたところ、市としては、機能的な面も考慮して中型車に統一して購入する方針であるが、大型車購入について地区の要望があれば、差額を地元負担とすることで購入を認めているとの説明がありました。

次に、議案第二十号館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定についてであります。見舞金について他市

の状況の説明を求めましたところ、見舞金制度は県下十一市で実施しており、区分等の内容が同一でないが、死亡や全焼の場合三万円を給付している市は六市、全焼の場合五万円を給付している市は二市であるとの説明がありました。

次に、議案第二十四号昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第二号についてであります。財政調整基金は今回の積み立てにより一億四千五百四十六万一千円となったとの説明があり、今後なお二カ月の支払い分に相当する二億五千万円程度まで積み立てていきたいとの方針が示されました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げますが、満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。文教民生委員会委員長報告を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑なしと認めます。以上で、質疑を結びたいします。

## 討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第二十四号昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第二号に反対の討論をいたします。

歳入歳出それぞれ八千六百二十九万円の減額補正であります。歳出で財政調整基金への積み立てを四千一万四千円計上していま

す。国保税は納税者にとって最も高い税金になっているばかりか他の健康保険との比較においても割高のものとなっています。こうした中で、まずすべきことは減税であります。高い国保税をさらに高くしてまで財政調整基金に積み立てるのは了解できません。積み立てよりも減税にと主張いたしまして、反対討論といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、通告者による討論を終わります。通告をしない議員で討論はありませんか。

（七番議員古賀礼四郎君登壇）

（「ちょっとおかしいぞ」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 暫時休憩いたします。

午前十一時四十五分 休 憩

午前十一時四十六分 再 開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

発言の取り消し

○七番（古賀礼四郎君） 特に二十四号につきましては私賛成の討論を考えておりません。皆さまの御了解を得たいと思います。

先ほどの発言を取り消させていただきます。

○議長（林 豊君） ただいまの七番議員君の発言を取り消すことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

他に討論はありませんか。——討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は分割して行います。

まず、議案第十四号及び議案第十五号について採決いたします。議案第十四号及び議案第十五号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第十四号及び議案第十五号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第十六号について採決いたします。

本案に対する委員長の報告は一部修正でありますので、まず委員会の修正案について採決いたします。

委員会の修正案を可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の修正案は可決されました。

次に、ただいま修正議決をした部分を除く原案について採決をいたします。

修正部分を除くその他の部分を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、修正議決した部分を除くその他の部分は原案どおり可決されました。

次いで、議案第十七号ないし議案第二十号の各議案を一括して採決いたします。

議案第十七号ないし議案第二十号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第十七号ないし議案第二十号の各議案はいずれも原案どおり可決されま

した。

次いで、議案第二十四号について起立により採決いたします。議案第二十四号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第二十四号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、議案第二十四号昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算は原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、議案第二十一号、議案第二十二号及び議案第二十五号の各議案を一括して議題といたします。

## 建設経済委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに三月十五日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長石井 謀君御登壇願います。

（建設経済委員会委員長石井 謀君登壇）

○建設経済委員会委員長（石井 謀君） 去る三月十五日開会の本会議におきまして建設経済委員会に付託されました議案第二十一号公有水面埋立免許に関する答申について、議案第二十二号市道

路線の認定について、議案第二十五号昭和五十六年度館山市ユー  
スホステル特別会計補正予算第二号につきまして、去る三月二十  
日建設経済委員会を招集し、議案の審査を行いました。その経過  
並びに結果について御報告申し上げます。

まず、議案の慎重なる審査の結果につきまして、全員一致原案  
どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

公有水面埋立免許に関する答申についてであります。この埠  
頭は商業用か、漁業用か、または工業用か尋ねたところ、館山港  
については漁港区域と商港区域とに分かれているが、今回埋め立  
てをしようとする区域は、商港区域である旨の答弁がありました。

また、工事そのものが船の出入りに影響はないかどうか質問し  
たところ、本埋立工事については従来どおり埋め立てにより支障  
がないように施行するという旨の答弁がありました。

次に、館山港に入ってくる船舶がふえて収容しきれないために  
埋め立てを行って埠頭をつくるということはないのか尋ねたところ、  
文書によると一般の貨物の取り扱いが減少してきているが、  
館山港は自衛隊の基地と漁港、山砂の扱いに代表されていること  
が現状であり、今後バース新設により埠頭機能を整備し、施設を  
充実、向上させるために埋め立てをするとの説明があった。

続いて、自衛隊と漁船に対し直接の関係はないかと思うかどうか  
尋ねたところ、今回埋め立てする埠頭用地について直接自衛隊と  
の関係はない旨の答弁がありました。

また、特定者のための公有水面の埋め立てになりやしないか尋

ねたところ、そのようなことがあってはいけないということで県  
といういろいろ話し合いをした。その話し合いの中で、埠頭用地の利  
用については特定業者に使用させることはない。だれでも使用し  
たいときは申請をし、審査の結果、差し支えないということであ  
れば使用できる。現在使用している三業者は当然申請が出される  
と思われるが、その他の人でも支障のない限り使用させるとい  
う公平な管理を考えているとの説明がありました。

続いて、三業者はどこか尋ねたところ、株式会社池田運輸、服  
部回漕店、房州海運株式会社である旨の答弁がありました。

次に、許可期間について尋ねたところ、いつからいつまでとい  
う文書はついていない旨の答弁がありました。

続いて、占用許可の許可権者は千葉県知事だが、地元市町村長  
の副申を必要としないかどうか尋ねたところ、後日県に問い合わせ  
て回答する旨の答弁がありました。

次に、いま許可を受けている業者は即新しい埠頭を使う権利を  
持っているか、また新たに申請をして使用することになるかた  
だしたところ、県と話し合いをした段階では、新しい埠頭につ  
いてはいまの三業者を優先的に入れることは全然考えていない旨の説  
明がありました。

続いて、地元の同意をとっているか尋ねたところ、船形漁協、  
池田運輸、服部回漕店及び房州海運から同意書をとっており、地  
域住民個々との話し合いはしてないが、本埋め立てについて去  
る一月二十六日から二月十五日までの期間、関係書類を縦覧に供し  
たところ、これに対して異議等はなかったので、賛成が得られた  
ものとしているとの説明を受けている旨の答弁がありました。

次に、市道路線の認定について、稻、池の内線と藤原、佐野線についての道路建設の事業主体について質問したところ、稻、池の内線については圃場整備によるものであり、藤原、佐野線については京成であり、今回寄付によって市道に認定しようとするものである旨の答弁がありました。

次に、市道の認定基準について説明を求めたところ、幅員については四メートル以上ということで考えている。それと寄付の申し込みがあった場合、現地踏査を行い、側溝のないものについては側溝をつけさせ、舗装のいたんでいるところについては打ちかえさせ、認定後すぐ維持補修のないよう考えている旨の答弁がありました。

続いて、建設後何年以上という条件について尋ねたところ、建設の時期云々ということについては考えていないが、境界標をしっかりとつけるとか、認定基準が満たされたときに寄付の受け入れをしているとの説明がありました。

次に、圃場整備区域内の道路についてどう考えているか尋ねたところ、現在圃場整備区域内に相当な幹線道路ができているが、土地台帳の整備等事務手続が非常に遅れているのが現状である。道路ができて公簿上においても道路ということで分筆がされ、なおかつ後の管理に必要な境界標が打たれている場合、市としては幹線であれば市道にしていく考えである旨の答弁がありました。

続いて、圃場整備地区内にある三中全会の通学道路は相当先にならないと認定はできないか尋ねたところ、圃場整備の事務手続が完了すればすぐできると思う旨の答弁がありました。

なお、圃場整備区域内の幹線については市において原材料の支

給により整備を図っているところであるが、御指摘の通学道路についても現地を調査し、通学に支障のないようにしたい旨の答弁がありました。

次に、圃場整備の区域内で利用度の高いものについては市道並みの取り扱いができないか尋ねたところ、単に農業用の道路としてだけでなく、市民の利用が高いということであれば、積極的に整備していきたい旨の説明がありました。

以上、建設経済委員会に付託されました議案について、本委員会の審査の概要を御報告申し上げます。

なにとぞ、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げ、建設経済委員会委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長の報告について御質疑を願います。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はございませんか——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は一括して行います。

議案第二十一号、議案第二十二号及び議案第二十五号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第二十一号、議案第二十二号及び議案第二十五号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午後零時五分 休 憩

午後二時 再 開

○議長（林 豊君） 午後出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

## 議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第四、議案第一号ないし議案第七号昭和五十七年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

## 予算審査特別委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各会計予算は、ともに去る三月十六日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより各会計予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長吉田勇治郎君御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長吉田勇治郎君登壇）

○予算審査特別委員会委員長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました議案第一号ないし議案第七号昭和五十七年度館山市一般会計並びに特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審

査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る十六日開会の本会議におきまして設置されました本委員会を二十三日、二十四日の両日にわたって招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出総務費中、行政事務委託について三町内会から拒否する旨の申し出があったとの新聞報道があるが、その事実関係について、また他に波及すれば行政事務の混乱も予想されるが、市の対処方についていただきましたところ、二十日、北条海岸、渚、三軒町の三町内会長から協力しない旨の申し出があったが、真意を十分つかんでいないので、今後十分話し合い協力を得るよう努力したい。なお、委託料については逐次増額を図っており、本年度も五・三割引き上げ、県下各市の状況からも平均的な水準にあるとの答弁がありました。

次に、耐震性井戸貯水装置については、五十六年度においては未執行の結果となり、本年度設置場所調査委託料のみが計上されていますが、地震の発生が憂慮されている今日、飲料水の確保は急務と考えるので、調査完了次第補正の措置を講ずる等すみやかな対応を要望いたしました。

次に、民生費中、民生委員業務委託料を計上し、地域福祉の向上を図っていますが、民生委員個々に活動状況を記録し、報告することによって負担を感じている委員もいるので、報告の趣旨につき十分なる理解を得るよう要望いたしました。

次に、老人健康審査につきまして、五十六年度一般検診八十六

名、精密検診三十名の受診者との説明を受けましたが、本市の老人口から見ると受診率が低いと考える。十分な周知が必要ではないかとの質問に対しまして、従前から地区の民生委員、老人クラブ等組織を通じて審査を受けるよう呼びかけているが、老人は大部分が医者にかかっておることから受診者が少ないものと思われる。今後も引き続き周知を図っていきたいとの回答がありました。

次に、衛生費じん芥処理費中、最終処分場用地購入費について及びじん芥処理施設の建設計画について説明を求めましたところ、長期的に使用できる埋立地を確保しなければ処理場の基本的な計画が進められないことから、本年度衛生センター敷地南側の砂採取跡と水田を買収する計画を立て、今後具体的な交渉を行う予定である。

また、じん芥処理場の移転については、五十七年度を初年度とする計画を厚生省に提出している。百トン規模の施設は三カ年の補助事業ということで、年度ごとの補助金の交付率により異なるが、五十九年夏頃までに完成させたい計画であるとの説明がありました。

次に、し尿処理費に関連して、従量制移行に伴って収集量と投入量はどのようになったか。また計量の公正が保たれていると考えているか。さらに各款にわたって計上されているし尿収集手数料の積算根拠についてたどりましたところ、収集量と投入量の比較については、従量制移行が五十六年四月からであるため年間の資料はないが、保全公社の資料によると収集量が千七百キロリットル減で、収入見込みとして三百万円増が予想される。

なお、計量については公社の職員を十分指導し、誤差を少なくするよう努力しているが、今後も職員の資質向上に全力をあげたい。

各款に計上しているし尿収集手数料についてはトリットル当たり百二十四円で積算計上したが、収集手数料の改定が下回れば不用額として残ることとなり、補正も考えられるとの説明がありました。

次に、労働費中、勤労者の福利厚生を目的として勤労者団体補助金が計上されており、安房地区労働組合協議会に対し補助するものであるとの説明を受けましたが、地区労に加盟していない勤労者に対する配慮も必要と考えるので、将来の検討課題とするよう要望いたしました。

次に、農林水産業費中、農業企画研究会育成事業補助金が計上されていますが、研究会の活動状況について説明を求めましたところ、会員数は五十五名で、野菜、畜産、花卉の三部門に分かれて部門別に研究、研修を行う等活動しているとの説明がありました。が、農業後継者が地域に適合した部門で真剣に取り組んでおることに対し、今後とも十分なる育成を図るよう要望いたしました。

次に、農用地流動化事業に対する報償金、交付金が計上されていますが、本事業の内容について説明を求めましたところ、農用地流動化事業は、農用地利用増進法に基づいて五十六年度から五カ年の補助事業として農地の集団化、高度利用を図るもので、当市では五十六年度二ヘクタール、五十七年度以降毎年三十ヘクタール程度を計画し、全体として全耕地面積の五割、百二十五ヘクタールを達成したいとの説明がありましたが、水田利用再編対策



が強化される中で、農業経営はますます困難が予測されることから、市においても十分な指導を行うよう要望いたしました。

次に、商工費中、中小企業融資制度につきましては、最近の経済情勢から利用者が減少の傾向にあるとの説明を受けましたが、融資運営委員会の運営について、貸付側からの審査に重点が置かれているように考えるので、利用しやすい制度の確立につき検討されるよう要望いたしました。

次に、観光費につきまして、城山に博物館分館が建設されたことに伴い、駐車場として旧国鉄バス館山駅跡地を開放できないかとの質問に対し、市で買収した用地であるし、開放することにはやぶさかでないが、今年は桜祭り、ツツジ祭りは行わない予定で、分館のオープンも十一月になるので、いまのところ開放は考えていない旨の答弁がありました。

次に、土木費中、館山駅西口地区土地区画整理事業B調査委託料が計上されていますが、調査内容について説明を求めましたところ、区域は、五十六年度は西口地区A調査として四十五ヘクタール行ったが、今年度は都市計画決定されている駅前広場五千五百平方メートル、海岸に至る都市計画街路を中心として五ないし十ヘクタールを考えているが、数量的には確定していない。なお西口地区の事業実施にあたっては、施行内容が公共施設が中心となるので、市施行になると思われるとの説明がありました。

次に、国道一二七号館山バイパスにつきまして進捗状況の説明を求めましたところ、現在まで土地改良事業に関連して千二百メートルの用地確保が行われており、本年度は残り全線の地形測量小原から平久里川までの一筆測量及びその買収が計画されている

との説明がありました。早期実現に向けてなお一層の努力を要望いたしました。

次に、街路事業費中、都市計画街路八幡、高井線に関する公有財産購入費及び補償金が計上されているが、その内容について説明を求めたところ、国道一二七号から東に向けて五十六年度買収した地点までを、幅員十六メートルで二百七十三平方メートル買収する予定であり、補償金はこれに伴うものであるとの説明がありました。

次に、消防費中、消火栓新設負担金が前年度より大幅に減額されているが、また消防自動車購入費が計上されているが、どこに配備するのか。分団の消防自動車は何台かについて説明を求めましたところ、消火栓については前年度海岸通りの水道管布設に伴い二十三カ所設置したが、本年度は水道管工事による新設は高井三カ所、安布里一カ所を予定している。

また、購入する消防自動車は畑に配置するものである。なお、消防団は消防自動車二十三台、積載車五台、計二十八台を保有しているとの説明がありました。

次に、教育費中、放送センターにつきましては、設立当初の目的が変わってきたように思うが、存続の意義について説明を求めましたところ、教材の効率化、職員の研修の場、社会教育面での効果、視聴覚ライブラリーとしての性格も持っており、それぞれ効果を上げている。今後も充実させることで存続しなければならぬとの説明がありました。

次に、博物館分館が完成し、本年度本館建設に伴い多額な予算計上となっているが、基本的な展示方針について説明を求めたと

ころ、分館については八大伝関係資料、本館については里見関係資料を中心として考えており、古代の館山、里見関係を中心とした中近世、館山の昔の暮らしとして民族文化財、館山地方を訪れた芸術家の作品展示の四つのテーマを設定し、準備計画を進めているとの説明がありました。

次に、本年度は統合による学校教育環境整備の初年度にあたり諸施策が予算化されているが、統合の是非は今後における対応如何によることを十分認識され、万全を期せられるよう強く要望いたしました。

次に、公債費は前年度対比二四％の伸びとなっているが、公債費に対する基本的な考えについて見解をたしましたところ、長期的な観点に立った財政構造の確立は大きな課題であり、地方債残高は五十七年度七十六億、五十九年度には九十五億程度と予測しているが、一方、債務負担行為による残高は十五億あったものが一億五千万に減少した。また財政調整基金による年度間の財源調整、償還費充当を考えて財政健全化の確立を図るべく、本年度予算の編成にあたったとの見解が示されました。

次に、基金について、財政調整基金の現在高は七億四千八百万余円、土地開発基金については二億二千四百万余円を保有しており、主として定期預金として管理しているとの説明を受けました。基金の取りくずしにあたっては、基金設定の趣旨に基づいた運用を要望いたしました。

次に、職員給与費について、初任給は正に関する新聞報道があるが、内容について説明を求めましたところ、本市の初任給は国との比較において高卒で三号、短大卒で二号と六カ月、大卒で二

号高くなっていることから、国、県の指導もあり、社会情勢等勘案して、高卒一号引き下げ、短大一号の引き下げ六カ月の調整を行い、四月から実施する予定であるとの説明がありましたが、大きな不利益がないよう十分なる配慮を要望いたしました。

次に、歳入であります。市税については特に積算基礎、課税客体の正確な把握等について審査を行い、公平な課税の確立に一層の努力を要望いたしました。

次に、繰越金については過去存目計上でありましたが、本年度七千四百万円が計上されたその説明を求めましたところ、歳入は十二月補正後の時期でとらえた。特別交付税はわからなかった。現時点で五十六年度決算見込みでは、財産売り払い収入一億四千三百万円、特別交付税一億三千万円、市税の伸び七千六百万程度収納可能と見込んでいるとの説明がありました。

以上、本委員会における審査の概要を申し上げましたが、市当局におかれましては、今後予算の執行、行政運営にあたって本委員会の要望、指摘事項等十分配慮されるよう要望いたします。付託を受けました議案第一号ないし議案第七号昭和五十七年度館山市一般会計及び特別会計予算は全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、御報告いたしました。委員長報告を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。以上で、質疑を終結いたします。

討

論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第一号昭和五十七年度館山市一般会計予算に反対の討論をいたします。

昨年は、国民の直接消費支出が戦後初めて二年連続のマイナス、完全失業者が政府統計始まって以来最高の月平均百二十六万人など、市民生活をめぐる現況は一段と厳しくなっています。

こうした中で、新年度予算は、まず何よりも市民生活を守る防波堤でなければなりません。ところが、これとあらはらに新年度予算は市民にとって増税と負担増の市民泣かせの予算となっています。

個人市民税は五十六年度当初予算対比で一四％の増税、固定資産税は一％の増税など、市民の名目的な所得の増はとくに物価高に食われ、実質的にはマイナスとなっているのに、この増税であります。さらに汲み取り料金の約二倍もの値上げを見込むなど、議会の修正でそれが実施できませんでしたが、そこに政治不在、市民いじめの半澤市政の政治姿勢をあらわにしたものとして厳しく批判するものであります。

臨時行政調査会の答申は、行政サービスの全国的公平性、統一性の確保と、その調和を口実に、自治体がそれぞれ行っている各種サービスに一方的に国の基準を押しつけ、さらに各種単独事業への国の干渉を露骨に示唆さえしています。憲法に保障された地方自治をないがしろにするこうした臨調の答申に抗議するとともに

に、まず何よりも国は、たとえば保育所費一つとっても、市の五十七年度予算では九千三百万円もの超過負担を余儀なくされている実態をすみやかに解消すべきであります。保育所費の超過負担は、五十六年度当初予算では六千二百万ですから、五十七年度では三千百万円もふえています。前年比では五〇％も上昇していることは重大な問題であると考えます。超過負担は解消どころか、臨調答申を受けた自民党政治のもとで拡大されているわけで、地方の時代は言葉だけのものとなっています。市はこの実態を明らかにし、国にその解消を強く働きかけることを主張いたします。

以上の諸点を主張し、反対討論といたします。

次に、議案第二号昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計予算に反対の討論をいたします。

国民健康保険事業は本来国の委任事務でありますから、その事務費は国が全額負担すべきにもかかわらず、一般管理費六千二百四十三万四千円に対し、国の事務費負担金は二千七百三十二千円に過ぎず、市の超過負担は三千五百四十万二千円にもなります。さらに国庫補助金はカットされ、前年比千四百七十九万九千円と減らされています。

こうしたことの結果、保険給付費の増が四千六百三十万六千円と対前年比二・三％の増にもかかわらず、市民が負担する国民健康保険税は五千二百八十八万二千円もふえ、対前年比六％の増税と保険給付費の増をはるかにしのいでいます。国民に負担を転嫁し、本来国が負担すべきものを負担しない国の姿勢に厳しく抗議するとともに、市長は財政調整基金の運用を図り、国保税の上昇を抑えるべきであります。

以上の点を主張し、反対討論をいたします。

○議長（林 豊君） 以上で、通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。以上で、討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決を行います。採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず、議案第一号昭和五十七年度館山市一般会計予算について起立により採決いたします。

議案第一号についての委員長の報告は原案可決であります。委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、議案第一号昭和五十七年度館山市一般会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第二号国民健康保険特別会計予算について起立により採決いたします。

議案第二号についての委員長の報告は原案可決であります。委員長の報告どおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、議案第二号国民健康保険特別会計予算は原案どおり可決されました。

続いて、議案第三号ないし議案第七号の各特別会計予算を一括して採決いたします。

議案第三号ないし議案第七号の各特別会計予算についての委員

長の報告は原案可決であります。各特別会計予算を委員長長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第三号ないし議案第七号の各特別会計予算はいずれも原案どおり可決されました。

## 請 願 書 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第五、請願第二号し尿くみ取り料金の値上げに反対する請願書を議題といたします。

### 文教民生委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました請願書は、去る三月十五日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長古賀礼四郎君御登壇願います。

（文教民生委員会委員長古賀礼四郎君登壇）

○文教民生委員会委員長（古賀礼四郎君） 請願書の審査結果について御報告申し上げます。

去る十五日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました請願第二号し尿くみ取り料金の値上げに反対する請願書につきましては、十九日の委員会において慎重に審査いたしました結果不採択とすべきものと決定いたしました。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

お諮りいたします。

本請願書につきましては、討論省略直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、決しました。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は起立により行います。

請願第二号についての委員長の報告は不採択であります。請願第二号を委員長の報告どおり不採択と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、請願第二号し尿くみ取り料金の値上げに反対する請願書は不採択と決しました。

請 願 書 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第六、請願第三号日本農業再建・食糧自給率向上のための食糧制度拡充を求める請願書を議題といたします。

### 建設経済委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました請願書は、十五日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長石井 謀君御登壇願います。

（建設経済委員会委員長石井 謀君登壇）

○建設経済委員会委員長（石井 謀君） 去る三月十五日開会の本会議におきまして、本建設経済委員会に付託されました請願第三号日本農業再建・食糧自給率向上のための食糧制度拡充を求める請願書につきまして、三月二十日委員会を招集し、慎重なる審査を行いました。

その経過及び結果について御報告申し上げます。

本請願については採決の結果、不採択と決しました。

次に、審査の経過について概要を申し上げます。本請願書は国県及び当市にとって重大な影響を及ぼす内容でありますので、特に慎重を重ね、審査にあたっては県下の状況そして当市において制度拡充すべき作物の栽培状況、主食の配給等に関連のある担当課長、農業団体を代表する機関である農業委員会事務局長等の出席を求め、内容審査に入りました。

まず、食糧法の一部改正により現在どのようなになっているか尋ねたところ、配給制度そのものはいまだ存続しているが、購入券等については一切廃止されている旨の説明がありました。

次に、飼料米について県下の状況を尋ねたところ、昨年県

において試験栽培を行っている」と聞いていたが、その結果についてはまだ聞いていない旨の答弁がありました。

次に、日本農業が壊滅的な打撃を受けた場合、食糧自給に不安はないか質問したところ、国の制度にかかわる問題であるが、国の方針としては、そういう場合においてはこれまでの制度を再び発効させるという考え方のようである旨の説明がありました。

続いて、請願事項の二項目、三項目について国の考え方がどうであるかは把握しているか尋ねたところ、二項目については管理品目に組み入れることはむずかしいよう受けとめている。また三項目については識別、流通体制等の問題から非常に困難性があるというのが国の考え方と受けとめている旨の答弁がありました。次に、本請願は請願事項の一項目に真意があると考えられるが、実際に市内の農家からそのような話を聞いているか尋ねたところ話の中で個人的な意見としては出てくることもあるが、公の場では聞いていない旨答弁がありました。

以上で、建設経済委員会に付託されました請願についての概要を御報告申し上げました。なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願いいたしますして建設経済委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

お諮りいたします。

本請願書につきましては、討論省略直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、決しました。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は起立により行います。

請願第三号についての委員長の報告は不採択であります。請願第三号を委員長の報告どおり不採択と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、請願第三号日本農業再建、食糧自給率向上のための食管制度拡充を求める請願書は不採択と決しました。

## 継続審査について

○議長（林 豊君） この際、申し上げます。

去る三月十五日の本会議において総務委員会に付託されました請願第一号地域の公共交通確保に関する請願書について、委員長から会議規則第七十五条の規定により閉会中の継続審査とされた旨の申し出がありました。

お諮りいたします。本請願書を委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

## 議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第七、議案第二十八号館山市助役の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

### 議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第二十八号館山市助役の選任について提案理由の説明を申し上げます。

本市助役小倉澄男君がこの三月三十一日をもって任期満了となりますが、同君は助役として適任と考えますので、再任いたしました市議会の御同意を得ようとするものでございます。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

### 委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することと御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は起立により行います。

助役選任について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、助役選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

### 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第八、議案第二十九号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

### 議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第二十九号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について提案理由の説明を申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員であります伊藤輝夫君の任期がこの三月三十一日をもって任期満了となりますが、同君は同委員として適任と考えますので、引き続き選任をいたしたいと存じますので、御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑願います。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を

終わります。

### 委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本件はこれに同意することに決しました。

### 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第九、発議案第一号核兵器完全禁止及び

軍縮に関する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

### 議案の内容説明

○議長（林 豊君） 提出者の説明を求めます。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第一号核兵器完全禁止及び軍縮に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

近年、世界におきます核兵器の増強、拡散の動向が強まっていることが指摘され、国民の核兵器に対する関心と不安が一段と高まっております。

かかる見地から、国会におきましても核軍縮決議を行い、核兵器廃絶に貢献するとしておりますが、今年は特に第二回国連軍縮特別総会が開催されますので、この際、本市議会といたしましても、唯一の被爆国としてのわが国の立場をより明確にし、核兵器の完全禁止の実現及び軍縮を政府に要望することは、市民の負託にこたえるものと考え、お手もとに配付のとおり七名の賛成者を得まして本案を提出した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明いたします。

○議長（林 豊君） 以上で、説明は終わりました。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

### 採 決



○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第十、発議案第二号第九次道路整備五カ年計画策定に関する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

## 議案の内容説明

○議長（林 豊君） 提出者の説明を求めます。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第二号第九次道路整備五カ年計画策定に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり、わが国の道路は現在まで八次にわたります。道路整備五カ年計画によりまして逐次整備されておりますが、まだまだ質量とも不十分でありまして、特に地方の道路の整備が遅れているのが現況であります。地域経済の発展及び地域住民の生活上向のためには今後さらに道路整備を進める必要があると考えます。

しかしながら、現在の厳しい財政状況からいたしまして、道路整備に要する財源確保が憂慮される状況にかんがみまして、五十

八年度発足予定の第九次道路整備五カ年計画策定にあたって、一層の道路整備の実現を要望いたしたく、お手もとに配付のとおり六名の賛成者を得まして本案を提案いたしました次第でございます。満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑はありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

## 委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することと御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

## 採決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉

会 午後二時五十二分閉会

○議長（林 豊君） 以上で、本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第一回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 一、議案第一号ないし議案第七号、議案第九号ないし議案第二十五号、議案第二十八号及び議案第二十九号
- 二、発言の取り消し
- 三、請願第二号及び請願第三号
- 四、継続審査について（請願第一号）
- 五、発議案第一号及び発議案第二号

地方自治法第二百三十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 林

豊

館山市議会議員

近

藤

好

雄

館山市議会議員

菊

井

敏

博